

XI 研 修 ・ 学 会 等

XII 実習生及び見学者受入状況

XIII 環境教育資料利用状況

XI 研修・学会等

研 修

年 月 日	研 修 名	氏 名	研 修 地
7.10.4～5	東北ブロック食品衛生 環境衛生監視研修会	高 嶋 司	天童ホテル (山形県)
8.1.24～2.2	情報処理研修	児 玉 仁 木 口 倫	国立環境研究所 環境研修センター(埼玉県)
8.3.6～8	環境科学	高 嶋 司	こまばエミナール(東京都)

学会出席

年 月 日	学 会 名	氏 名	開 催 地
7.4.2～4	1995年度日本土壌肥料学会	武 藤 公 二	東北大学農学部(宮城県)
7.10.1～5	環境科学学会	斎 藤 勝 美 児 玉 仁 木 口 倫	東京農工大学(東京都)
7.10.23～24	第6回世界湖沼会議	片 野 登	筑波大学大学会館(茨城県)
7.11.3～5	第36回大気環境学会	斉 藤 弥 斉 藤 勝 美	東京女子医科大学(東京都)
8.2.6～7	第28回日本水環境学会 セミナー	鈴 木 雄 二	品川区総合区民会館(東京都)
8.2.6～7	第30回日本水環境学会	高 橋 守 木 口 倫	九州産業大学(福岡県)

講師派遣

年 月 日	派 遣 先	氏 名	場 所
7.5.9、11、12、22 25、29	秋田県消防学校	高 田 熙	岩城町

XII 実習生及び見学者受入状況

実 習 生

年 月 日	実 習 生	人 数
7.4.24	秋田大学医学部実習生	1名
7.7.11～21	秋田大学鉱山学部学外実習生	3名
7.7.24～8.4	//	2名
7.7.27～8.4	//	1名
7.8.3～16	//	1名
7.8.1～10.27	国際協力事業団(JICA)有害物質分析技術研修生	1名
7.9.4	秋田大学医学部実習生	6名
7.11.17	//	6名
8.3.1	//	7名

見 学 者

年 月 日	見 学 者	人 数
7.6.26	東北電力秋田火力発電所	20名
7.7.24	南外村婦人学級	20名
7.7.31	西木村西明寺中学校(大曲仙北技術・家庭科夏季研修会)	6名
7.11.13	東北電力秋田火力発電所(海外技術研究員)	3名
7.12.8	秋田市役所(蘭州市技術研修生)	5名
8.3.28	高知県健康福祉部地域保健推進室	1名

ⅩⅢ 環境教育資料利用状況

年 月 日	資 料 名	利 用 者
7.6.6～13	パネル ビデオ	秋田県生活センター
7.6.21～23	パネル ビデオ	秋田県生活センター
7.7.31～8.5	ビデオ	大曲仙北技術 家庭科教育研究会
7.8.23～9.10	ビデオ	大曲保健所
7.9.4～7	パネル	田沢湖町立生保内小学校
7.9.21～27	パネル	鹿角市役所(市民課)
7.9.28～10.2	パネル ビデオ	私立和洋高校
7.10.18～30	ビデオ	大曲農業高校
7.10.23～11.23	パネル ビデオ	湯沢市立湯沢西小学校
7.10.25～27	パネル	本荘保健所
7.11.10～13	パネル	小坂町役場(町民課)

秋田県環境技術センター年報

—平成9年1月—

秋田県環境技術センター
(〒010)

秋田市八橋字下八橋191-18

TEL 0188(63)1425

FAX 0188(63)1076

※3号

印刷 / 株式会社 塚田美術印刷
住所 / 秋田市大町一丁目六一六

下限値以下であった。

1,1,1-トリクロロエタンは、測定地点および測定時期によって多少の違いはあるものの、明確な測定地点による違い、測定時期による差は認められない。測定値は、春期では0.38-1.32 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、夏期では0.48-1.32 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ であった。バックグランド地域での値は、春期が0.60 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、夏期が0.76 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ と商・工業地区、住宅地区および田園地区での値と同じ程度であった。

四塩化炭素は、1,1,1-トリクロロエタン同様、測定地点による違いは認められないが、測定時期では春期よりも夏期の方が多少高い傾向がうかがえる。測定値は、春期では0.28-0.77 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、夏期では0.51-0.84 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ であった。バックグランド地域で

の値は、春期が0.45 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、夏期が0.83 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ と商・工業地区、住宅地区および田園地区での値と同じ程度であった。

トリクロロエチレンおよびテトラクロロエチレンの測定値を、大気環境指針（トリクロロエチレンは250 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、テトラクロロエチレンは230 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）と比較してみると、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレンとも1/100以下であった。また、首都圏での測定結果⁴⁾と比較すると、試料の捕集方法、分析方法が異なるものの、トリクロロエチレンとテトラクロロエチレンはやや低い値、1,1,1-トリクロロエタンは同程度、四塩化炭素はやや高い値となっている。

表5 一般大気環境での測定結果 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)

測定地点名		トリクロロエチレン		テトラクロロエチレン		1,1,1-トリクロロエタン		四塩化炭素	
		春期	夏期	春期	夏期	春期	夏期	春期	夏期
秋田市	商・工業地区	0.2	<0.2	0.3	<0.2	1.13	0.73	0.77	0.71
	住宅地区	<0.2	0.3	<0.2	<0.2	0.38	0.87	0.28	0.84
	田園地区	<0.2	0.4	<0.2	<0.2	0.56	0.83	0.42	0.81
横手市	商・工業地区	<0.2	0.3	<0.2	0.5	0.77	1.09	0.58	0.75
	住宅地区	<0.2	0.5	0.2	0.5	0.99	1.32	0.60	0.70
	田園地区	<0.2	0.3	<0.2	0.4	1.32	0.84	0.51	0.51
仁賀保町	商・工業地区	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	1.10	0.79	0.55	0.78
	田園地区	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	0.89	0.48	0.65	0.52
バックグランド地域		<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	0.60	0.76	0.45	0.83

文 献

- 1) 秋田県生活環境部環境保全課：事業所におけるフロン、1,1,1-トリクロロエタン使用削減・全廃計画等アンケート調査集計結果（1993）。
- 2) 通商産業省大臣官房調査統計部編：主要塩素系溶剤統計（1995）。
- 3) 有機塩素化合物対策検討会（環境庁大気保全局）：有機塩素化合物による大気の汚染について（1993）。
- 4) 前田裕行・平野耕一郎・松田啓吾：拡散型長期曝露サンプラーを用いた横浜市内における大気中のフロン及び有機塩素系物質濃度（Ⅲ），横浜市環境科学研究所報，19，115-121（1995）。